

一三、全てを承知で出生——あの世で組むスケジュール

(ページ 『生まれて来た目的』参照)

私達は、やらなくてはいけない大きな使命を持って、今この世に出て来ているんですよ。

宿命というものは、この生まれて来た環境の中で、その環境を調和していく。私達が小さいと思っている、自分自身の心を調和する。その調和する事が、神の意志の大調和に繋がっていく。神の意志は大調和なんですよ。——それが私達人間の魂としての宿命なんです。

そうすると、使命というのとは何か？ ——これをやる為に転生を繰り返している中で、いろんな歪を造り出してきた。この使命を果たす為には、神を通して与えて貰った物の中で、環境を調和する。調和する為には、いろんな事をしなければいけない。自分は、こういう人の子供に生まれて、何をして、そしてこういう環境を乗り越えて、そして終わっていく。

これは、全部が全部、どんな人でもちゃんと決まっているんですね。——決まっている——と、そうじゃないんですよ。実は、(この世に出て来る前に) 自分でちゃんとスケジュールを組んで出て来ている訳です。全てを承知で出て来ている訳ですよ。この世的に言ったら、実は、それを(自分で決めたものを) 向こう(あの世)の方から、いろんな方法で出してくれているんですね。

「あ、あなた、それが終わったら、次はこれですよ」とか、「あんたは出来ないから、もっと苦しめ」とかね(笑)、出してくれる。

「あ、あなたは、これだけ苦しむようになっていくけど、よく頑張ったから、これだけで済むよ」とか、みんな向こうでやっているんですよ。

そしてこういう環境で、こういう事をやって……という、大筋のものが、一人一人ちゃんとあるんですね。

しかし、そればかりでは歩けないんですね。そうしたらそこに、ある程度の許容量というものがある訳です。この中でいろんなものを造り出している。

ところが、この大筋の中でやればいいけれども、みんなここから脱線だつせんしてしまう、飛び出してしまふ。

ですから先ず、この大筋の処もとまで戻って来なくてはいけない。もし使命を果たさなかつたら、今度生まれて来た時にやらなくてはいけない。

もし、地獄じごくに行ったとしても、また、明るい処かえに還らなければならない。

還かえつたら、また出て来る。出て来たらまた、これをやらなくてはならない。

自分が果はたせなかつた事は、果たせるまで、やるんですよ。出来るまでやらされる。

——やらされるのではなくて、自分が魂たまに戻った時に、「あ、これはいけなかつた。

やらなくてはいけないんだ」と分かる訳ですね。ちゃんと承知して出て来る訳ですよ。

もし、自分が人に迷惑を掛けられたとしたら、「あ、これは、かつて私が人に迷惑を掛けたのかもしれない」と、当然こういうふう to 受け取ることが必要ですね。

しかし、そんな事は考えたくないですね。

自分が今、とても環境が厳きびしい。苦しいけれども、「これは私は、この中で何か教おそわっているんだな。これを乗り越えられなかつたから、また今度も同じものが出て来

たんだな」と、やはり、ものは考えようですね。

そして、一つ一つ自分というものを研みがいていく訳ですね。

やはり自分というものは、

一、今、何故なぜいるんだらうな。

一、今、何をやらなくてはいけないのかな。

という疑問を持たなくてはいけない。

疑問を追求つひきゆうしていったら、必ず解答かいとうを得られると思いますよ。

それには、勇氣ゆうき・努力どりよく・積み重ねつみかさが必要ですね。——それが、この神かみの意いである
大調和つなに繋がつながっていくと思います。

一九八一年六月